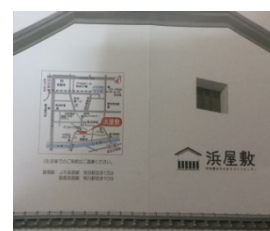


吹田まち歩き

淀川区の自宅からすぐ近くの神崎川を渡ると、吹田(すいた)に。自転車で吹田市役所に向け、細い道を駆け抜けた。途中まで車は少なく「すいた」感じだった。吹田市役所には、大学院時代に来たことがある。大阪自治体問題研究所の事務所が吹田市役所内にあった頃だと思う。



市役所1階ロビー上に、写真のような大きな「案内」が掲示されていた。「吹田歴史文化まちづくりセンター(浜屋敷)」と書かれていた。「浜屋敷」なるものに興味がわき、道を尋ねながら訪ねてみた。迷ったこともあり時間もなかったのも、またゆっくり訪ねてみたい。近くの「旧西尾家住宅」とともに、案内リーフレットから紹介したい。



浜屋敷は江戸時代吹田村の旧庄屋屋敷です。吹田市が寄贈を受け、歴史と文化のまちづくりに関わる文化活動や交流の場として活用するため、改修再整備して2003年6月、吹田歴史文化まちづくりセンターとして生まれ変わりました。2004年公募で選ばれた愛称「浜屋敷」は高浜町と南高浜町の「浜」に「お屋敷」を重ねたもので、やさしい響きで親しまれています。このあたりは農村地帯でありながら1200年前の昔から、京阪神を結ぶ神崎川の水運、亀岡街道・吹田街道の陸路の交差点でした。はじめは津として、江戸時代からは在郷町として発展してきました。南200mの所にある神崎川には「吹田の渡し跡」があります。かつてこの屋敷も過書株を取得し河川運輸に携わっていました。また北側には旧吹田市役所の跡もあります。

旧西尾家住宅

西尾家は江戸時代、吹田村の仙洞御料の庄屋をつとめました。こうした伝統を受け継いだ第11代興右門義成と第12代義雄によって、明治中期から昭和初期にかけて建築・整備されたのが、現在に伝わる建物や庭園です。建物が国の重要文化財、庭園は国の登録記念物(名勝)となっています。旧西尾家住宅は、近代の生活や文化が見事に体现された和風住宅建築として極めて優れたもので、ここには近代以降の豪農の暮らしぶりはもちろん、茶人として、和学から洋楽を修めた2代にわたる近代の教養人の暮らしが見事に反映されています。



(2018年1月19日)